

ポイ捨てを見守る

中和地区環境保全会の取組



これまでの活動を振り返る中田さん

家や農地の周りにごみが捨てられていく……。にわかには信じがたいような話ですが、長年地域の農家を困らせてきた課題でした。和寒町では平成20年度から活動が始まった各地区の環境保全会。中和地区で設立当初から会の中心となって活動を続けてきた会長の中田博さんはこう話しました。「最初のころは、1回のごみ拾いで軽トラック1台分ものごみがあった」

中和地区から旭川方面へと続く道道和寒鷹栖線は、いわゆる「裏道」として利用され、比較的交通量の多い道路です。人通りも少ないことから、通りすがりのドライバーにとっては「なんとなく」ポイ捨てをしやすいようなところなのかもしれません。会ができるまでは、地先の農家のごみを捨てられる度に拾っていたそうです。地道に続けてきた活動が9年目となった平成28年度に、農林水産省の多面的機能支払交付金を活用して啓発看板を設置することとなり、業者と打合せを繰り返しながらドライバーの目を引くデザインにしようと試行錯誤。「ただ捨てるなと書いても響かないし、かえって反発するかもしれない」と考えた中田さんは、「キツネや

タヌキなどの動物のかわいいイラストでまずは看板を見てもらい、快く協力してもらいたい」と話し、昨年11月中旬に設置が完了した看板を見ながら「会で草刈りやごみ拾いを継続してきた活動の成果もあり、年々ポイ捨ては減ってきている。普通の人なら、きれいな場所にはごみを捨てづらいでしよう。」と笑顔で話されていました。



20線7号交差点



20線6号に設置された看板



中和6の会館北側に設置された幅5.4mの大きな看板

啓発看板は全部で4ヶ所に設置され、中でも中和6会館に設置された看板は幅5.4mと一際目立つものになっています。また、南丘森林公園方面から中和へと向かう下り坂の急カーブには、交通安全の啓発も含めた看板を設置して事故防止を呼びかけています。



下り坂の急カーブにはスピードダウンの呼びかけも

環境保全会とは

農林水産省が平成19年度から始めた「農地・水・環境保全向上対策事業」により、地域協働の農地や環境保全の取組に対して交付金が支払われることとなり、町内各地域に平成20年度から設立された組織。地区の農地面積によって交付金が支払われ、農地や水路、景観の整備を地域住民自らが行なっています。